

留萌ロータリークラブ 会報

2006▶2007
WEEKLY REPORT

会長/中川 勝美 幹事/対馬 健一



率先しよう

2006~2007年度
国際ロータリーのテーマ

留萌ロータリークラブ会長テーマ
魅力ある明るく楽しいクラブは、
ロータリーを知り、
会員家族との親睦から

No. 2249 第10回 9月13日

プログラム

●本日

来賓卓話
旭川地方・家庭裁判所
留萌支部 庶務課長
横谷 正博様

●次週予定

来賓卓話
「公営企業としての市立病院」
株式会社 寺西薬局
代表取締役 寺西保博様

会員誕生日

9月14日 清水 陸
9月15日 鈴木 康伸
9月18日 大嶋 孝広

出席委員会報告

前
例
会

会員総数.....51名
出免会員.....8名
欠席会員.....10名
出席率.....76.74%

前
々
回

第8回 8月23日
欠席会員.....8名
メイクアップ.....4名
修正出席率.....90.90%

例会/毎週水曜 12:15~13:15 留萌産業会館2F



会長報告

- 8月31日第3回定例理事会及び第2回クラブ協議会が開催され次の事が理事会にて承認されました。
9月例会プログラムを承認しました。
7月末の会計報告を承認しました。
江端会員より転倒して腰を痛み、治療入院が必要との事から出席免除の届が出ていましたが、定款第8条第3節(a)項の規定により9月6日の例会より出席免除を承認致しました。
- 早速昨日市立病院に江端会員のお見舞いに行き参りました。背骨を痛めたようでコルセットをしていましたが、非常に元気でした。
- 国際ソロプチミスト留萌会長の安達香代子さんより8月24日のビアパーティーの協力のお

礼のハガキを頂きました。

- 8月28日(月)第26回創始者杯争奪ゲートボール大会の開催の協力のお礼状と決算打内訳を留萌市ゲートボール協会渡辺正美会長より頂きました。



幹事報告

- 1) ロータリーの友事務局より「ロータリーの友」英語版の注文書がまいりました。ご希望の方は幹事まで。
- 2) 13日の例会は会場が産館1階小ホールに変わりますので、お間違えのないように。

例会及び日時変更

- 砂川RC 9月13日の例会は14日の滝川RCとの合同例会に変更。午後6時か

第9回 9月6日(水) 天候/晴

ら砂川パークホテル。

- 深川 R C 9月26日の例会は23日泊発電所の見学会に変更、26日は休会。

会報受領先

- 深川 R C 2323号 ~ 2326号
- 芦別 R C 2366号 ~ 2369号
- 妹背牛 R C 当期 5号 ~ 7号
- 羽幌 R C 1322号 ~ 1325号

愛好会

麻雀愛好会 齋藤愛好会会長

今年度第2回目の大会を9月20日(水)午後6時30分、スナックいふにて開催致します。FAXにて出欠を取りますのでよろしくお願い致します。

3分間情報

情報委員会 高田委員長
(前回のつづき)

この先、私が皆さんにお願いしたいのは、年齢にかかわらずすべての人々を快く迎え入れることのできるようなクラブの雰囲気づくりに努めていただくことです。そして、インターアクト、ローターアクト、青少年交換、その他数多くの青少年のためのプログラムの重要性を、どうかしっかりと心にとめてください。これらの若者たちが、私たちの未来なのです。

ロータリーのリーダーとして、もう一つ銘記すべきは、ロータリーの未来に本当に大切なことというのは、この会場で起こることでも、エバンストンの理事会室で起こることでもないということです。大切なのは、世界中の32,000のクラブで日々起こることなのです。ロータリーのリーダーとして、私たちは、ロータリーの未来が世界中のクラブとその会員一人一人に託されていることを忘れてはなりません。皆さんの仕事と役割は、それらの会員と共にあるべきです。皆さんの仕事は、クラブを知り、クラブ会

長を知り、彼らを成功に導くための手助けを行うことにより、地区の充実を図ることです。

ロータリアンとして、私たちは、クラブや地域社会で行われてきた従来のやり方を惰性としてそのまま繰り返すことに満足しません。私たちは現状維持に甘んじることなく、生じた問題に対して、誰かが解決してくれるだろうなどと責任逃れをすることもありません。それどころか、解決しようじゃないかと、自ら先陣を切るのが私たちです。より良い未来を築く技術と願望を備えているのが私たちです。そして、「率先しよう」と立ち上がるのが、私たちなのです。

(田中毅PDG作「ロータリーの源流」より引用)

ニコニコBOX

- 8月プログラム及び例会無事終わりました
9月もよろしくお願いいたします 田中先生より
C D頂きました 中川会長
- ロータリー農園で野菜を頂いております
大沼会員
- 河部会員より写真をいただきました
平間会員
- 河部会員よりDVDをいただきました
西谷(英) 串橋会員
- 来週シールを再配布いたします 鈴木会員

前 回	407,000円
今 回	6,000円
累 計	413,000円

プログラム

「富士登山駅伝監督としての思い」

富士登山駅伝大会

留萌チーム監督 近藤 一茂様

本日はこの様な席に御招きいただき誠にありがとうございます。また日頃より留萌自衛隊及び富士登山駅伝に対しまして物心両面のご支援をいただき、この場をお借りいたしましてお礼申し上げます。

本日は富士登山駅伝の監督としての思いと言う事でお話をさせていただきます。まず富士登山駅伝に参加した経緯を言いますと、平成7年3月に旭川に駐屯していた第9普通科連隊が廃止になり、それに伴い第9普通科連隊に在籍していた前監督の佐々木監督が26連隊の4中隊に配置になりました。この佐々木監督が9連隊時代に監督として富士登山駅伝に参加して、それを26連隊がそのまま引継ぎ、現在に至っております。

留萌自衛隊としてこの駅伝に参加したのは今年で12回目になりますが、参加当初の平成7年・8年頃は富士登山駅伝に参加するという認識があまり無く、勿論部隊とかの理解協力も無かったので、車の手配や宿泊場所の調整など大変苦労したと聞いています。

成績も11位、24位と振るわなかったのですが、3年目の平成9年の大会で徐々に力が付いてきて準優勝する事が出来ました。今考えてみると、この大会がチームのターニングポイントとなったみたいで、準優勝した事で選手達にはやれば出来るんだという気持ちが変わってきて、それに伴い部隊での応援や市民の支援体制が出来上がりました。選手たちにとってこの大会に参加する事は留萌市民の応援・支援を受けての参加との自覚ができ大変力になりました。平成14年には選手が揃わず18位と成績も下がりましたが、平成9年より今大会まで6位以内入賞は9回を数えます。

私が監督として引き継いだのは平成15年の佐々木監督の定年からで、自分も選手としてまたコーチとして駅伝には関わって参りました。選手の間からもコーチの間からもこの駅伝を見てきましたが、当初佐々木監督の後は誰が監督をやるのか、後から監督をやる人は大変だろうなどと、他人事の様に見ておりました。

実際監督の退任後、なかなか適任者がおらず大変のようでしたが、今まで市民からいただいた支援・応援を無にすることは出来ませんので、私が引き継ぐ事になりました。

前監督はやはりすごい人でしたので、私にどれだけ出来るかわかりませんので、自分なりに



出来る事をしようと考え5つのこだわりを掲げました。私は初めに選手に言ったのは、自分は今からランナーを育てていくのではなく、人を育てて行こうと思っているので5つのこだわりを持って付いてきてくれと話しました。

1つは感謝の気持ちであり、走るのが当たり前と思っている隊員もおりましたが、市民の応援・支援や部隊や、家族の協力などがあって、初めて参加出来るのだという事を認識し感謝する事。

2つ目は思いやりの心を持つことで、相手の立場になって物事を考えなさい、そうする事で自分の行動も決ってくるという事です。

3つ目は挨拶で、当然のことですが、礼に始まり礼に終わると言う様にどこへ行っても個人としてチームとして恥ずかしくないようにとの事です。

4つ目は時間の厳守で、当然駅伝チームとしては日頃から時間を大切に、時間を疎かにしないよう気を付けていこうという事です。

5つ目は特技の練成で、これはチームのメンバーは色々な部隊から集まっていますので、各部隊での特技が疎かにならないようにしようという事です。

他の隊員から走るだけしか出来ないと言われぬ様に、自分の部隊での仕事(特殊技術)等にも磨きをかけろという事です。これらはランナーとしてではなく、それ以前の間人としてしっかりと人格形成をして大会を目指して行こうという思いからです。それにより現在では選手達に自主性が芽生え、目標を与えるだけで、自分で判断して活動するようになりました。道からそれた時だけ監督が指示すれば良いので

第9回 9月6日(水) 天候/晴

すから、監督としては大変楽になり、今のところ順調に進んでいます。

それではチームについて少しお話をいたします。私たちのチームの特徴としては陸上経験者が少ない事です。選手は15名おりますが、半数が未経験者です。経験者でも富士登山駅伝をさせるには3～4年かかり、未経験者であれば5～8年はかかります。

ですから平均年齢で見ますと、留萌チームの今年度駅伝チームは31歳と高くなっております。ちなみに他のチームを見ますと、滝ヶ原 26 8歳、板妻 28歳、守山23.6歳、国分 24.8歳、空挺 24歳、遠軽では26.3歳となっています。留萌みたいに30歳を越えたチームはありません。

他の常連チームは高校や大学で陸上の経験のある者が多く、留萌のように陸上未経験者が入

る事はめったにありません。私と致しましては若手の育成を重点目標においてチームを指導しております。今年も若手を富士登山駅伝に連れて行ったのですが、練習では体力的にもベテランと遜色がありません。ただ精神的なものをもう少し身に付ければ安心して任せれるようになると思います。これから留萌チームは徐々に平均年齢が下がると思います。

最後になりますが、今後とも皆様のご支援をいただきながら頑張って参りたいと思います。本日は誠にありがとうございました。

■ 富士登山駅伝大会 ■



練習風景



頂上区



富士登山駅伝スタート
(御殿場陸上競技場)



第3位でゴール



悲願の第3位入賞